

音 楽

目 次

1	音楽科改訂のポイント	1
2	音楽科の目標のポイント	2
3	音楽科の内容のポイント	4
4	各学年の指導のポイント	6
5	指導計画の作成と内容の取扱いのポイント	10
6	指導例	13

1 音楽科改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

- 音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことなどを重視する。
- 子どもの発達段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、歌唱、器楽、創作、鑑賞ごとに指導内容を示すとともに、小・中学校においては、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。
- 創作活動は、音楽をつくる楽しさを体験させる観点から、小学校では「音楽づくり」、中・高等学校では「創作」として示すようにする。また、鑑賞活動は、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにするとともに、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力の育成を図るようにする。
- 国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

(2) 改善の具体的事項

多様な音や音楽を感じ取り、創意工夫して表現したり味わって鑑賞したりする力の育成や、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを重視し、次のような改善が図られている。

- 表現領域（「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野）、鑑賞領域及び〔共通事項〕で内容を構成する。
- 「創作」については、生徒が音を音楽へと構成していく体験を重視する。
- 鑑賞領域においては、音楽に関する言葉などを用いながら、音楽に対して、生徒が根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成する。
- 和楽器については、簡単な曲の表現を通して、伝統音楽のよさを一層味わうことができるようにするとともに、我が国の伝統的な歌唱の指導も重視する。また、我が国の自然や四季、文化、日本語のもつ美しさなどを味わうことのできる歌曲を更に取り上げる。
- 合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視する。また、音楽文化の多様性を理解する力の育成を図るとともに、音楽と生活や社会との関わりを実感できるように指導する。



音楽科の主な改訂のポイント

- 目標の改善・・・「音楽文化についての理解を深め」ることを教科目標の中に規定。
- 内容の改善
 - ・ 内容の構成の改善
「A表現」、「B鑑賞」、〔共通事項〕で構成し、「A表現」については、歌唱、器楽、創作ごとに事項を示す。
 - ・ 歌唱共通教材の提示
我が国のよき音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにする観点から、7曲の歌唱共通教材を示し、各学年ごとに1曲以上含めることとする。
 - ・ 我が国の伝統的な歌唱の充実
我が国の伝統的な歌唱のうち、伝統的な声の特徴を感じ取れるものを歌唱教材選択の観点として示す。
 - ・ 和楽器を取り扱う趣旨の明確化
表現活動を通して、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することを示す。
 - ・ 創作の指導内容の焦点化・明確化
言葉や音階などの特徴を手掛かりに旋律をつくること、音素材の特徴を生かして構成を工夫してつくることとする。
 - ・ 鑑賞領域の改善
音楽のよさや美しさを味わい、音楽の構造などを根拠として述べつつ、感じ取ったことや考えたことなどを言葉を用いて表す主体的な活動を重視する。
 - ・ 〔共通事項〕の新設
音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること、音楽に関する用語や記号などについて音楽活動を通して理解することを〔共通事項〕として新たに示す。
 - ・ その他
自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにする、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりする、音楽に関する知的財産について触れるようにするなどの配慮を行う。

2 音楽科の目標のポイント

(1) 教科の目標について

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

この目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して学習が行われることを前提とし、生活を明るく豊かにするための音楽を愛好する心情を育てること、音楽に対する感性を豊かにすること、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすこと、人間と音や音楽との関わりとして音楽文化についての理解を深めること、これらが総合的に作用し合い豊かな情操を養うことによって構成されている。



「音楽文化についての理解を深め」ること

- ・国際化が進展する今日、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深め、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに諸外国の音楽文化を尊重する態度の育成を重視する。
- ・様々な音楽がもつ固有の価値を尊重し、その多様性を理解できるようにするとともに、音や音楽によって、人は自己の心情をどのように表現してきたか、人と人がどのように感情を伝え合い、共有し合ってきたかなどについて、生徒が実感できるように指導することが大切である。

(2) 学年の目標について

	第1学年	第2学年及び第3学年
情意面に関する目標	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
表現に関する目標	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
鑑賞に関する目標	多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

第2学年及び第3学年は、学校や生徒の実態などに応じた弾力的な指導を効果的に進めることができるよう、学年の目標及び内容がまとめて示されている。第1学年から第3学年まで、表現及び鑑賞の幅広い活動を継続的に深まりをもって行うことにより、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性、音楽の諸能力が徐々に育まれていくという学習の特性を考慮し、それぞれの学年にふさわしい指導を工夫して目標の実現を目指す必要がある。

3 音楽科の内容のポイント

(1) 内容の構成について

今回の改訂では、内容の構成を全面的に見直すことにより、指導のねらいを一層明確にし、生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切にしたい学習の充実を求めている。

平成20年告示	平成10年告示
「A表現」 (1) 歌唱に関する内容 ア、イ、ウ (2) 器楽に関する内容 ア、イ、ウ (3) 創作に関する内容 ア、イ (4) 表現教材 ア、イ 「B鑑賞」 (1) 鑑賞に関する内容 ア、イ、ウ (2) 鑑賞教材 [共通事項] (1) 要素に関する内容 ア、イ	「A表現」 (1) ア、イ (=歌唱に関する内容) ウ (=器楽に関する内容) エ (=歌唱と器楽に関する内容) オ、カ (=創作に関する内容) キ、ク (=要素に関する内容) (2) 表現教材 ア、イ 「B鑑賞」 (1) ア、イ (=要素に関する内容) ウ、エ (=鑑賞に関する内容) (2) 鑑賞教材



- [共通事項]については、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各活動の支えとなるものであり、表現及び鑑賞の各活動と[共通事項]とを関連させて指導する。
- [共通事項]のみを単独で指導するものではないことに留意する。
- 活動ごとの各事項は、感じ取る対象、思考・判断、表現の三つの視点で構成している。

(2) 各領域及び[共通事項]の内容について

①表現領域における指導内容

表現領域の学習は、歌詞の内容や曲想、楽器の特徴、言葉や音階の特徴などをとらえ、イメージをもって曲にふさわしい表現や構成を工夫すること、表現をするために必要な技能を身に付けること、音楽の背景となる文化などに目を向けること、これらが相互に関連し合うことが大切である。なお、これらの学習を支えるものとして[共通事項]が位置付けられている。



- 表現領域の指導内容は、次の五つの観点からとらえられる。
- ・音楽の素材としての音…声、楽器の音、自然音、環境音などの質感を感じ取り、表現活

動をする際、音の出し方などについての意識をもつこと。

- ・ 音楽の構造…音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などをとらえ、それらを音楽の表現に生かすこと。
- ・ 音楽によって喚起されるイメージや感情…生徒の内的な世界に作用し、表現を発展させるために音楽の構造を解き明かすこと。
- ・ 音楽の表現における技能…音楽に対する解釈やイメージ、曲想などを適切に表現したり、姿勢、呼吸法、身体の動きなどを意識すること。
- ・ 音楽の背景となる風土や文化・歴史など…曲のとらえ方や表現を深めることにつながる視点をもつこと。

②鑑賞領域における指導内容

鑑賞領域の学習は、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取ること、感じ取ったことや理由などを言葉で表すこと、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解すること、様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解すること、これらが相互に関連し合うことが大切である。なお、これらの学習を支えるものとして〔共通事項〕が位置付けられている。



鑑賞領域の指導内容は、次の五つの観点からとらえられる。

- ・ 音楽の素材としての音…音楽の素材として使われている音そのものの質感を感じ取ること。
- ・ 音楽の構造…音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などをとらえ、音楽に対する理解をいっそう深めること。
- ・ 音楽によって喚起されるイメージや感情…鑑賞によって、自分の中に新たなイメージなどが生まれることを意識したり確認したりすること。
- ・ 音楽の鑑賞における批評…客観的な理由を基にして、自分にとってどのような価値があるのかといった評価をすること。
- ・ 音楽の背景となる風土や文化・歴史など…音楽をより深く聴き味わうことに結び付け、自分にとって価値ある音楽を見いだす契機とすること。

③〔共通事項〕における指導内容

〔共通事項〕の学習は、音楽がどのように形づくられているかについて、要素や要素同士の関連を知覚すること、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ること、音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて音楽活動を通して理解すること、これらが一連のものとして行われることが大切である。



〔共通事項〕の指導内容は、次の三つの観点からとらえられる。

- ・ 音楽の構造の原理…音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚すること。
- ・ 音楽的な感受…音楽を形づくっている要素や要素同士の働きが生み出す特質や雰囲気

を感受すること。

- ・音楽を共有する方法…音楽に関する用語や記号、楽譜など、音楽文化の継承・発展を可能にするもの。

4 各学年の指導のポイント

(1) 第1学年の「A表現」について

①歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
- ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

- 事項アの「表現を工夫して歌う」とは、表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、よりよい表現の方法を見いだして歌うことである。また、曲想を感じる活動と、表現を工夫して歌う活動とは表裏一体の関係にあり、これらの活動を繰り返していくことにより、曲想の感じ取り方が徐々に深まり表現の質も高まっていく。
- 事項イは、言葉と音楽との関係を一層重視する観点から「言葉の特性を生かして歌う」と表現が変更された。「言葉の特性」には、言葉の抑揚、アクセント、リズム、子音・母音の扱い、言語のもつ音質、語感などがあげられる。この事項の学習では、対象とする音楽について、本来の持ち味がよりの確に表現できるように、生徒自らが創意工夫して歌うことが重要であり、何通りもの発声の方法を身に付けることがねらいではないことに留意する。
- 事項ウの「合わせて歌う」は、生徒同士が各声部の役割を大切にして、表現を工夫しながら合わせて歌うことに学習のねらいがあることを明確にしたものである。この事項における歌唱教材は、西洋音楽的な合唱のみならず、我が国や郷土の伝統音楽を含む多様な曲種を取り扱うことが考えられる。
なお、我が国の伝統音楽では、楽器と合わせて歌うことも多いので、器楽の事項ウと関連させることが考えられる。この場合、例えば、唄、箏、三味線、囃子などをそれぞれの声部としてとらえ、曲にふさわしい表現をすることが大切である。

②器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。
- イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。
- ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

- 事項アは、今回の改訂で、歌唱の事項アに相当する器楽の指導内容として新たに設けられた。

- 事項イの「基礎的な奏法」は、対象となる教材曲の表現に必要なとされる楽器の初歩的な演奏方法のことである。
- 事項ウの「合わせて演奏する」は、生徒同士が各声部の役割を大切にして、表現を工夫しながら合わせて演奏することに学習のねらいがあることを明確にしたものである。音楽における声部の関わり方は多様であり、和声的、対位法的な意味に限定されるものではない。

なお、我が国の伝統音楽では、歌唱と合わせて演奏することも多いので、歌唱の事項ウと関連させることが考えられる。この場合、例えば、唄、箏、三味線、囃子などをそれぞれの声部としてとらえ、曲にふさわしい表現をすることが大切である。

③創作の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
- イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

- 創作の活動では、〔共通事項〕との関連を図りながら、音楽をつくる能力を育てていくことが指導のねらいとなる。指導に当たっては、小学校の音楽科における「音楽づくり」の学習の経験など生徒の実態に応じた学習過程を工夫することが大切である。

④表現教材は、次に示すものを取り扱う。

- ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。
- イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。
 - (ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの
 - (イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの

(2) 第1学年の「B鑑賞」について

①鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさを味わうこと。
- イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。
- ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

- 事項アの「言葉で説明する」とは、音楽を形づくっている要素や構造などを理由としてあげながら音楽のよさや美しさについて述べることである。
- 事項イの指導に当たっては、事項アと関連させて、生徒の興味・関心を引き出しなが

ら、主体的に鑑賞できるように工夫する。

- 事項ウの指導に当たっては、事項アと関連させて、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴を比較して聴き、共通点や相違点、固有性などから、音楽の多様性を感じ取ることができるようにする。

②鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。

- 鑑賞教材の取扱いについて、今回の改訂では、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を一層深め、我が国の音楽文化を尊重する態度を養うことをねらいとして、我が国や郷土の伝統音楽を重視している。生徒の興味・関心、学習の実態などを十分に考慮して指導のねらいに適切なものを選択することが重要である。

(3) 第2学年及び第3学年の「A表現」について

①歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

- 事項アでは、第1学年よりも更に自らの価値判断を伴ったより豊かな音楽表現の工夫を目指している。味わった内容を更に深めていくという観点から、歌詞や楽曲の成立背景、作詞者や作曲者についても、必要に応じて学習することが望まれる。
- 事項イについては、第1学年における「曲種に応じた発声」の学習を更に充実するとともに、言葉の特性について考え、曲種に応じた発声や言葉の特性の理解を深めていくことが大切となる。
- 事項ウでは、音楽の構造を把握し、自分の担当する声部と他の声部との役割を理解するとともに、全体の響きとの関わりを大切にするため、表現意図を互いに確認し合うなど、話し合いの場面を設けて生徒同士で音楽表現を練り上げていく過程や、表現を聴き合い客観的にとらえ、更なる工夫につなげていく過程などを重視した指導を工夫する。

なお、我が国の伝統音楽では器楽と合わせて歌うことも多いので、器楽の事項ウと関連させることが考えられる。

②器楽の活動を通して、次の事項を指導する。

ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。
イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。
ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

- 事項アでは、第1学年よりも更に自らの価値判断を伴ったより豊かな音楽表現の工夫を目指している。
- 事項イの指導に当たっては、楽器の特徴や曲想に基づいて、「このような音色で表現したい」といった意識を高めることが必要である。
- 事項ウでは、音楽の構造を把握し、自分の担当する声部と他の声部との役割を理解す

るとともに、全体の響きとの関わりを大切にするため、表現意図を互いに確認し合うなど、話し合いの場面を設けて生徒同士で音楽表現を練り上げていく過程や、表現を聴き合い客観的にとらえ、それを更なる工夫につなげていく過程などを重視した指導を工夫することが大切である。

なお、我が国の伝統音楽では歌唱と合わせて演奏することも多いので、歌唱の事項ウと関連させることが考えられる。

③創作の指導を通して、次の事項を指導する。

- | |
|--|
| ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。
イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。 |
|--|

- 事項アの指導に当たっては、生徒が音のつながり方を十分試すことができるような活動を設定し、旋律をつくる楽しさや喜びを実感できるように指導を工夫することが重要である。
- 事項イについては、音を音楽へと構成する楽しさや喜びを実感できるようにするとともに、反復、変化、対照などの音楽を構成する原理の働きや、全体的なまとまりが音楽として意味をもたらすことに気付くようにすることが重要となる。

④表現教材は、次に示すものを取り扱う。

- | |
|---|
| ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切で、生徒の意欲を高め親しみのもてるものであること。
イ 歌唱教材には、次の観点から取り上げたものを含めること。
(ア) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの
(イ) 民謡、長唄 ^{ながうた} などの我が国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの |
|---|

- 第1学年の学習を踏まえ、生徒がより主体的・意欲的に楽曲との関わりをもつとともに、表現することの達成感や成就感を味わい、より多様な音楽へと視野を広げていくことができるような教材の選択が求められる。

(4) 第2学年及び第3学年の「B鑑賞」について

①鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

- | |
|--|
| ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。 |
|--|

- 事項アの「根拠をもって批評する」とは、音楽のよさや美しさなど、音楽を形づくっ

ている要素や構造などの客観的な理由をあげながら言葉で表すことである。その際、音楽を形づくっている要素や構造、特質や雰囲気及び曲想、それらの関わり、気に入ったところ、他者に紹介したいところなど自分にとってどのような価値があるのかといった評価などを含めて、自分なりに批評をすることができるように指導する。

- 事項イの指導に当たっては、事項アと関連させて、音楽が人々の暮らしとともに育まれてきた大切な文化であることなどを、生徒自らとらえることができるようにする。
- 事項ウの指導に当たっては、事項アと関連させて、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の共通点や相違点、固有性などから、音楽の多様性を理解できるようにする。

②鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。

- 第1学年よりも一層多種多様な音楽に広げるように配慮し、指導のねらいに即した適切な教材を選択することが大切である。

(5)【共通事項】について

- ①【共通事項】の示し方は第1学年と第2学年及び第3学年は同じであるが、第2学年及び第3学年においては、学習の深化を図るように配慮することが大切である。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

- 事項アについて、第1学年では、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する能力を育てることを、第2学年及び第3学年ではその能力を高めることをねらいとしている。指導に当たっては、我が国及び諸外国の様々な音楽におけるそれぞれの特徴をとらえる窓口として、表現及び鑑賞の各活動と関連させて、これらの要素に関する学習を行うことが大切である。
- 事項イの指導に当たっては、単に名称などを知るだけではなく、用語や記号などの大切さを生徒が実感できるように配慮する必要がある。第2学年及び第3学年では、未習の用語や記号などを計画的に扱うとともに、既習の用語や記号などについても、指導のねらいに即して扱うことが大切である。

5 指導計画の作成と内容の取扱いのポイント

(1) 指導計画作成上の配慮事項について

音楽科の指導計画には、3学年間を見通した指導計画、年間指導計画、各題材の指導計画、各授業の指導計画などがある。指導計画を作成する際は、それぞれの関連に配慮するとともに、評価計画を含めて作成する必要がある。

- ①各学年の内容の【共通事項】は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な

- るものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。
- ②各学年の内容の「A表現」の歌唱、器楽、創作及び「B鑑賞」の鑑賞の各活動を通して指導する事項の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにすること。
- ③各学年の内容については、生徒がより個性を生かした音楽活動を展開できるようにするため、表現方法や表現形態を選択できるようにするなど、学校や生徒の実態に応じ、効果的な指導ができるよう工夫すること。
- ④第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示された道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの連携を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること。



指導計画の作成に当たっては・・・

- [共通事項] をよりどころとして、表現と鑑賞の相互関連を図った題材の指導計画を作成したり、歌唱、器楽、創作の相互関連を図った題材の指導計画を作成したりすることも重要である。
- 各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮することが大切である。
- 今回の改訂では、第1学年から、表現方法や表現形態を選択できるようになった。指導のねらいを明確にした上で、学習の効果を十分に考慮して、多様な音楽活動を設けるよう配慮することが必要である。
- 道德教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

(2) 内容の取扱いと指導上の配慮事項について



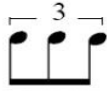



①歌唱の指導については、次のとおり取り扱う。

- ・各学年の「A表現」の表現教材について示された事項イの(ア)の歌唱教材について、我が国のよき音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにする観点から、その趣旨にふさわしい下記の楽曲を共通教材として示し、各学年ごとに1曲以上を取り扱う。

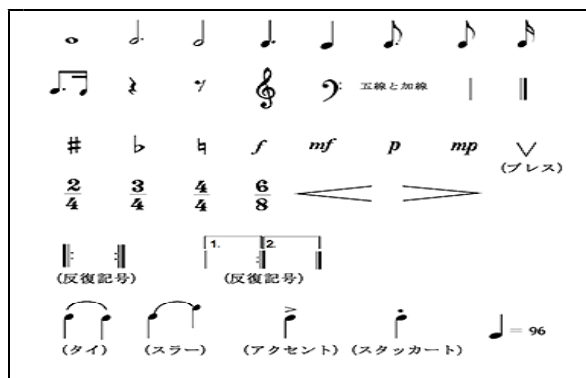
「赤とんぼ」	み き る ふ う 三木露風作詞	や ま だ こ う さ く 山田耕筰作曲
「荒城の月」	ど い ば ん す い 土井晩翠作詞	た き れ ん た ろ う 滝廉太郎作曲
「早春賦」	よ し ま る か ず ま さ 吉丸一昌作詞	な か だ あ き ら 中田 章 作曲
「夏の思い出」	え ま し よ う こ 江間章子作詞	な か だ よ し な お 中田喜直作曲
「花」	た け し ま は ご ろ も 武島羽衣作詞	た き れ ん た ろ う 滝廉太郎作曲
「花の街」	え ま し よ う こ 江間章子作詞	だ ん い く ま 團伊玖磨作曲
「浜辺の歌」	は や し こ け い 林 古溪作詞	な り た た め ぞ う 成田為三作曲

- ・変声期に気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、無理のない声域や声量で歌わせるように留意する。
- ・相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いる。

- ②器楽の指導については、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いる。なお、和楽器の指導については、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫する。
- ③我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導については、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方に配慮する。
- ④読譜の指導については、 \sharp や \flat の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1 \sharp 、1 \flat 程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにする。
- ⑤創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する。その際、理論に偏らないようにするとともに、作品を記録する方法を工夫させる。
- ⑥歌唱、器楽、創作の各活動における表現を充実させるために、創意工夫する学習の過程において、指揮などの身体的表現活動を効果的に取り上げるようにする。
- ⑦各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱う。
- ・生徒同士のコミュニケーションを重視した指導を工夫する。
 - ・自然音や環境音などについても取り扱い、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるような指導を工夫する。また、コンピュータや教育機器の活用も工夫する。
 - ・音楽に関する知的財産について、必要に応じて触れるようにする。
- ⑧各学年の〔共通事項〕のイの用語や記号などは、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、次に示すものを取り扱う。

拍	拍子	間	序破急	フレーズ	音階	調	和音
動機	Andante	Moderato	Allegro	rit.	a tempo		
accel.	legato	<i>pp</i>	<i>ff</i>	dim.	D.C.	D.S.	
							
(フェルマータ)	(テヌート)	(三連符)	(二分休符)	(全休符)	(十六分休符)		

【参考：小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(6)】



Examples of musical notation and symbols:

- Notes: quarter, eighth, sixteenth, and dotted notes.
- Rests: quarter, eighth, and sixteenth rests.
- Dynamics: *f*, *mf*, *p*, *mp*.
- Tempo markings: *rit.*, *a tempo*.
- Repeat signs: first and second endings.
- Other symbols: fermata, tie, triplet, half rest, full rest, sixteenth rest.
- Tempo: $\text{♩} = 96$.

6 指導例

◆第1学年の指導例

(1) 題材

郷土の音楽に親しもう（全2時間）

(2) 題材について

奈良県内には様々な郷土芸能やそれに伴う音楽が残っている。しかし、中には郷土芸能などにほとんどなじみのない地域もある。そこで、我が国の特徴的な郷土の音楽とともに県内の郷土の音楽を取り上げ、鑑賞教材や現地取材のDVD、録画資料などを活用した授業を通して、県内で長い間受け継がれてきた郷土の音楽に関心をもたせ、それらを身近に感じ、親しませたいと考えた。

ここでは、県指定無形民俗文化財である「太鼓踊り」（奈良県中学校音楽教育研究会著作『音楽のワークブック1』に掲載）を取り扱う。これは、五穀豊穰ごこくほうじょうと地域の安全を願う行事として、大太鼓、小太鼓（締太鼓）、横笛かね、鉦、歌に合わせ、背中に飾りを付けて踊るものである。その音楽は、口伝承として継承され、楽譜などは存在しない。これらを聴き取りながら表現する活動を通し、郷土の音楽の特徴やよさを味わわせ、郷土の音楽に対する理解を深めさせたい。そして長年受け継がれてきた郷土の文化を大切に、郷土を愛する心情を育てたい。

(3) 目標

- ・郷土の音楽に関心をもち、我が国の伝統的な楽器や歌唱による表現の特徴を感じ取る。
- ・郷土の音楽を歌唱や器楽で表現することを通して、伝統を尊重し、郷土を愛する心情を育てる。

(4) 内容について

本題材は、〔第1学年〕の内容 A表現（1）イ（2）アとB鑑賞（1）ア及びイを、主に〔共通事項〕の事項のア「音色」「リズム」「旋律」等の支えにより関連付けることを図った取組である。

(5) 教材

- ・DVD（「郷土の音楽」、現地取材、「奈良の魅力映像BOX」）
- ・「太鼓踊り」の歌詞

(6) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	エ 鑑賞の能力
①我が国や郷土の音楽の楽器の音色やリズム、旋律等の特徴に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音色、リズム、旋律等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、郷土の音楽に適した発声や楽器の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、ど	①音色、リズム、旋律等を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、郷土の音楽の特徴をその背景となる地域の文化・歴史と関
②郷土の音楽に適した発声や		

<p>楽器の奏法、音色、響きなどに関心を持ち、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>のように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>連付けて、解釈したり価値を考えたりして鑑賞している。</p>
---	----------------------------------	-----------------------------------

(7) 指導と評価の計画

時	○目標 ・学習活動	◇指導上の留意点	☆評価方法等	教材
<p>ねらい：我が国や郷土の伝統的な音楽の特徴を感じ取る。</p>				
<p>1</p>	<p>○我が国の郷土の音楽の特徴を聴き取ろう。 ・地域の特徴的な音楽を2曲（以下、A、Bとする）聴く。 ・A、Bを視聴する。 ○身近な郷土の音楽の特徴を聴き取ろう。 ・「太鼓踊り」（以下、Cとする）の音楽を聴く。 ・Cの歌詞を見ながら視聴する。</p>	<p>◇音楽の特徴を感じ取り、どの地域の音楽か、どのようなことからそう思ったかを考えさせる。 (例) A；沖縄県 エイサー B；京都府 祇園ばやし ◇楽器の音色、声の出し方、リズム、旋律等の特徴に着目し、どの地域の音楽か確認するよう指示する。 ◇使われている楽器、歌い方、旋律の特徴、拍子の変化等を感じ取らせる。 ☆発言・ワークシート（ア-①） ◇旋律の音程を把握させる。</p>	<p>(例) おどりがまいる おどりがまいる 一のもんひらけ 二のもんひらけ <small>〔これより立〕</small> 三三ごろえて もんをひらいた ようじゅんやくや カラカ カラカ ドウデンカラカ ドウデンカラカ ドウデン デコ デコデン ドウデン カラカ カラカ カラカ まいり来て これの おにわで おどりをすれば こがね こぐさが あしにからまく ようじゅんやくや カラカ カラカ ドウデンカラカ ドウデンカラカ ドウデン デコ デコデン ドウデン カラカ カラカ カラカ</p>	<p>DVD「郷土の音楽」 現地取材のDVD ワークシート 「太鼓踊り」の歌詞</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓・鉦のリズムを聴く。 ・歌・和太鼓・鉦に分かれ、DVDの音声に合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇リズムを指で打ちながら聴くよう指示する。 ◇必要に応じて、歌詞に旋律の高低や、和太鼓、鉦を打つ箇所などを書き込むように指示する。 ◇声の出し方、楽器の音色、響き等に気を付けさせる。 ☆演奏（ア-②） 	
ねらい：伝統を尊重し、郷土を愛する心情を育てる。			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土の音楽を演奏しよう。 ・前時と同様に、歌・和太鼓・鉦に分かれ、DVDの音声に合わせて演奏する。 ○郷土の音楽について理解しよう。 ・DVD（※「<u>奈良の魅力映像BOX</u>」の複写）を視聴する。 ・「太鼓踊り」のDVDを鑑賞する。 ・「太鼓踊り」を再度演奏する。 ・気付いたこと・感想をワークシートに記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇郷土の音楽に適した音楽表現を工夫するよう助言する。 ☆演奏（イ-①） ◇奈良県には様々な郷土芸能があり、「太鼓踊り」はその一つであること、また県指定無形民俗文化財であることを知らせる。 ◇地域の人々のつながりや支え合い、伝統文化の継承について考えさせる。 ◇歌・太鼓・笛・鉦・踊りの関わり合いに着目させる。 ◇これまでの学習の成果を生かして演奏するよう助言する。 ☆発表・ワークシート（エ-①） 	「太鼓踊り」の歌詞 「奈良の魅力映像BOX」 現地取材のDVD ワークシート

※参考 「奈良の魅力映像BOX」 <http://www.miryoku.pref.nara.jp/>

- ・「篠原踊り・阪本踊り」 (3分20秒) 五條市
- ・「十津川の大踊り」 (3分30秒) 十津川村
- ・「大柳生の太鼓踊り」 (3分04秒) 奈良市
- ・「題目立」 (3分30秒) 奈良市

【ワークシートの例】

ワークシート① 1年 組 番 名前 ()

音楽を聴いて気付いたこと・感じたことを記録しよう

	A	B	C
地域			
楽器 声 旋律 その他			
音楽の 特徴			

ワークシート② 1年 組 名前 ()

「太鼓踊り」を視聴して・・・歌と太鼓、笛、鉦、踊りはどのように関わり合っているかな？

郷土の伝統芸能の学習を通して気付いたこと、感じたことを書き留めよう！

◆第2学年の指導例

(1) 題材

歌舞伎かぶきに親しもう (全1時間)

(2) 題材について

我が国には伝統的な総合芸術として歌舞伎があるが、鑑賞する機会が少ないのが現状である。そこで、県内の桜の名所である吉野山を舞台とした歌舞伎「義経千本桜」の特徴的な場面を鑑賞教材として取り上げ、歌舞伎を身近なものとして感じ、親しみをもたせたいと考えた。

この取組を通して、義太夫節の声や三味線の音色、独特のリズム感を感じ取り、伴奏音楽くろみすや黒御簾音楽と歌舞伎独特の表現方法や演出とが深く結び付いていることを理解させ、歌舞伎の面白さを味わわせたい。

(3) 目標

- ・歌舞伎の音楽の特徴を感じ取り、舞踊・演技などと結び付いた音楽表現について理解する。

(4) 内容について

本題材は〔第2学年及び第3学年〕の内容 B鑑賞(1)のア及びイを、〔共通事項〕の事項アの「音色」「リズム」「テクスチャ」を支えとして深く聴き味わうことを図った取組である。

(5) 教材

- ・DVD 歌舞伎「義経千本桜」より四の切「川連法眼館の場」
- ・DVD 「中学校の音楽鑑賞9」より「歌舞伎」

(6) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
①歌舞伎に親しみ、歌舞伎の伴奏音楽や黒御簾音楽に対する関心を持ち、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。	①義太夫節の声や三味線の音色、拍節的なリズムや拍節的でないリズム、様々な音と音との関わりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎に用いられている音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取って、解釈したり価値を考えたりして鑑賞している。

(7) 指導と評価の計画

時	○目標 ・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価方法等	教材
ねらい：歌舞伎の舞台や演出、伴奏音楽について知り、歌舞伎独特の表現を味わう。			
1	○歌舞伎の雰囲気を感知しよう。 ・音楽を聴き、どんな楽器が使われているか、どんな場面の音楽であるか、考え、発表する。 ・DVDを視聴し、歌舞伎の音楽であることを知る。 ○歌舞伎の舞台や演出について理解しよう。 ・DVD「中学校の音楽鑑賞9」より「歌舞伎」を視聴する。 ○物語のあらすじを理解しよう。 ・「義経千本桜」のあらすじを読み、登場人物の関係を理解する。	◇DVD「義経千本桜」より四の切「川連法眼館の場」宙乗りの場面の音声を聴かせる。その際、イメージをもちながら聴くよう助言する。 ◇鳴物の確認をする。 ◇歌舞伎独特の舞台や演出について補足説明をする。 ◇「義経千本桜」における伴奏音楽が義太夫節であることに気付かせる。 ◇「義経千本桜」と奈良県との関わりや時代背景について説明する。	DVD 歌舞伎 「義経千本桜」 「中学校の音楽鑑賞9」

<p>○音楽・舞踊・演技の三要素が結び付いた表現のおもしろさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD「義経千本桜」より四の切の特徴的な演出の場面を視聴し、義太夫節の声や三味線の音色、拍節的なリズムや拍節的でないリズム、様々な音と音との関わりの特徴を感じ取る。 ・音色やリズム、音と音との関わりが生み出す働きが、登場人物の心情の変化や舞、演技とどのように関わっているかを理解する。 ・印象に残った場面、気が付いた事など感想を記入し発表し合う。 	<p style="text-align: right;">ワークシート</p> <p>◇登場人物の心情を理解させ、音楽との結び付きについて感じ取らせる。</p> <p>◇海老ぞりの場面、早変わりの場面、宙乗りの場面を抜粋して視聴させ、役者の台詞や動作、外連<small>けれん</small>などに音楽が効果的に作用していることに気付かせる。</p> <p>◇歌舞伎が、我が国の文化遺産（重要無形文化財）として価値あるものであることに気付かせる。</p> <p>☆発言、感想、ワークシート（ア-①、エ-①）</p>
---	--

【ワークシートの例】

組 番 氏名 _____

「義経千本桜」四の切「川連法眼館の場」 あらすじ

佐藤忠信は主君義経の都落ちに際し、静御前を敵方から救った功によって源九郎の名を賜った。

一年後、都で静御前を守護していた忠信は、義経が吉野山の川連法眼かわつらほうげんの館にあることを知り、静御前の供をして吉野山へと旅する。しかしこの忠信の正体は狐で、静御前が義経から預かった初音はつねの鼓つづみの皮となった親狐を慕って、鼓の傍らを離れなかったのである。後白河法皇から賜った大切な品ではあるが、義経は源九郎狐の孝心に感銘を受け、初音の鼓を与える。

○登場人物について

法眼・・・（ ）

静御前・・・（ ）

義経・・・（ ）

忠信・・・（ ）

○伴奏

歌と楽器・・・（ ）

黒御簾で使われる楽器（ ）

歌舞伎に用いられている音楽の特徴についてまとめよう

○拍子は何分の何拍子？

○リズムは？

○音楽、舞踊、演技の関わりはどうなっているだろう？

○感想

◆第3学年の指導例

(1) 題材

わたしたちの「ふるさと」を歌おう（全3時間）

(2) 題材について

世代を超えて、我が国のよき音楽文化を受け継いだ歌唱曲は数多くある。それらは人々の心に深く残り、私たちの生活を豊かなものにしてくれる。特に、多感な中学生時代に味わった豊かな音楽体験は、後の長い人生の中で心の支えとなり、生涯にわたって音楽文化に親しむ基礎を築くことにつながる。

この題材では、小学校から扱われている「ふるさと」を教材として取り上げ、混声合唱の活動を通して、一人一人が表現したいイメージを自分の言葉で伝え合いながら、音楽をつくりあげていく喜びを感じ取らせたい。さらに、自分たちの住むふるさとのよさや大切さについて考える機会をもつことにより、音楽と自分の生活との関わりが実感できるような学習活動を目指したい。

(3) 目標

- ・声部の役割と全体の響きを理解して、曲にふさわしい表現をする。
- ・歌詞に込められた作詞者の心情を感じ取り、自分たちの生活と関わらせた表現を工夫する。

(4) 内容について

本題材は、〔共通事項〕の事項アの「音色」「旋律」「テクスチャ」「強弱」などを支えとして、〔第2学年及び第3学年〕の内容 A 表現（1）のア・ウを、「思いや意図をもって歌うこと」をねらって学習する取組である。

(5) 教材

「ふるさと」 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 黒部美樹 編曲
混声三部合唱または混声四部合唱

(6) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①歌詞が表す情景や心情や曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組	①発声やフレーズ、曲にふさわしい強弱や強弱の変化などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気	①歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、読譜の仕方な

<p>もうとしている。</p> <p>②声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②音のつながり方、音や旋律の組合せ方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>どの技能を身に付けている。</p> <p>②声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な読譜の仕方などの技能を身に付けている。</p>
--	--	--

(7) 指導と評価の計画

時	○目標 ・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価方法等	教材
ねらい：歌詞を味わって合唱する。			
1	<p>○歌詞の内容を味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 斉唱で主旋律を歌う。 ・ 歌詞を朗読し、小学校で学習した歌詞の意味を想起する。 <p>○音程やリズムを正確に歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パートリーダーが中心となって練習する。 <p>○歌詞を大切に歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で合唱する。 (次時のために録音しておく。) 	<p>◇発声練習を兼ねてのびのびと歌うよう指示する。</p> <p>◇言葉を大切に発音し、気持ちを込めて読むよう助言する。</p> <p>◇各パートで効率的に練習できるよう、CD等を準備する。</p> <p>◇音程やリズム、発音に気を付けて、歌詞の情景を想像しながら歌うよう指示する。</p> <p>☆活動の観察 (ア-①、イ-①)</p>	ふるさと
ねらい：声部の役割や全体の響きを理解して音色や強弱を工夫する。			
	<p>○声部の役割や全体の響きに気付こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の録音を聴き、よかった点、工夫すべき点をワークシートに書き、発表する。 	<p>◇歌詞の内容がよく伝わるようにするにはどうすればよいか考えさせる。</p> <p>◇声部の役割 (主旋律とハーモニー等)</p>	

2	<p>○声部の役割を生かした合唱表現を工夫しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の中でパートごとに歌う。 ・「La」で歌う間奏部分を重点的に練習する。 ・全体で合唱する。 	<p>に気付かせ、強弱や声の音色についてどのように工夫して歌えばよいか考えさせる。</p> <p>☆発言、ワークシート（イー②、ウー①）</p> <p>◇主旋律が引き立つ歌い方や各パートの役割を考えながら、全体の声が響き合うように練習するよう助言する。</p> <p>◇スキヤットは発音を気にせず、互いのパートを聴き合ってハーモニーを感じながら歌うよう、指示する。</p> <p>☆演奏（ウー②）</p>	<p>ワークシート</p> <p>ふるさと</p>
<p>ねらい：「ふるさと」にふさわしいイメージをもって豊かな音楽表現を目指す。</p>			
3	<p>○前時の学習内容を思い出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で合唱する。 <p>○歌詞の内容をより深く理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲が作られた背景を知り、歌詞を深く理解する。 <p>○自分たちの「ふるさと」を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生活する地域について、「ふるさと」と感じるころはどんなところか発表する。 <p>○自分たちの「ふるさと」を歌いあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したいイメージをまとめて、全員で合唱する <p>○学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したいイメージに近づくことができたか、合唱についての自己評価をワークシートに記入する。 	<p>◇前回の授業を振り返り、学習したことが身に付いているか確認する。</p> <p>◇世代を超えて歌い継がれているこの曲の魅力に触れ、作者の心情を考えさせる。</p> <p>◇将来、今住んでいる地域を離れたときにどのようなことを想起するのか等、音楽を自分の生活と関わらせて考えさせる。</p> <p>☆活動の観察、ワークシート（アー②、イー②）</p>	<p>ふるさと</p> <p>ワークシート</p>

【ワークシートの例】

音楽科 学習シート

3年 組 番 氏名 _____

題材名	わたしたちの「ふるさと」を歌おう		
教材	「ふるさと」 演奏形態（ ）		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・声部の役割と全体の響きを理解して、曲にふさわしい表現をする。 ・歌詞に込められた作詞者の心情を感じ取り、自分たちの生活と関わらせた表現を工夫する。 		
<p>1 歌詞の内容を味わおう。</p> <p>1 うさぎ追いし 彼の山 <small>こぶな</small> 小鮒釣りし 彼の川 夢は今も めぐりて 忘れがたき ふるさと</p> <p>2 如何<small>いか</small>にいます 父母 <small>つつが</small> 恙なしや 友がき 雨に風に つけても 思<small>い</small>いずる ふるさと</p> <p>3 志を 果たして いつの日にか 帰らん 山は青き ふるさと 水は清き ふるさと</p>	<p>歌詞の意味や作詞者の心情について、学習したことを書きとめておこう。</p>		
2	自分たちの合唱を聴いて、よかったところ、工夫すべきところを書こう。		
友達の発表を聴いて、参考になったことを記入しよう。			
3	「ふるさと」をどのように表現するか、まとめよう。		
4	歌についての自己評価 次の各項目について、どの程度できたかを記入しよう。 A よくできた B おおむねできた C まだ不十分		
		月	日
①	歌詞の内容を考え、言葉の発音に注意して歌う。		
②	自分のパートを正しい音程やリズムで歌う。		
③	強弱記号や曲の盛り上げ方を意識して歌う。		
④	声部の役割を意識して、ハーモニーを感じながら歌う。		
⑤	表現したいイメージをもち、思いを込めて歌う。		

◆第3学年の指導例

(1) 題材

言葉のリズムや抑揚を生かして歌をつくろう (全2時間)

(2) 題材について

「万葉集」や「古今和歌集」、「新古今和歌集」などには、県内の風景や歴史などに関わりのある和歌が数多くある。我が国の伝統文化や郷土に愛着をもち親しむ観点から、国語科で学習した和歌の中から奈良県との関わりのあるものを中心に上げ、それに旋律を付ける取組を設定した。その際、和歌に詠み込まれた心情や情景などを想起させ、言葉の抑揚を生かして和歌の内容にあった雰囲気や旋律となるよう、音と音とのつながりを吟味しながら旋律を付けることに留意させたい。

また、つくった歌を友達と批評し合うことを通して〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素の働きの気付かせる取組にしたいと考える。

(3) 目標

- ・和歌のもつリズムと抑揚に着目し、和歌の内容にあった音階を選び、旋律を付ける。
- ・音楽を形づくっている要素に基づいて友達のつくった歌を批評し、優れた点を見付ける。

(4) 内容について

本題材は、〔共通事項〕(1)アの働きを〔第2学年及び第3学年〕の内容 A表現(3)のアの活動によって感じ取らせる取組である。

(5) 教材

- ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」など(国語科の授業で既習の和歌を中心に扱う。)

(6) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①言葉の抑揚やアクセント、リズム、音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な記譜の仕方の技能を身に付けている。

(7) 指導と評価の計画

時	○目標 ・学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価方法等	教材
	ねらい：和歌のイメージに合う旋律を付けて、歌をつくろう。		
	○選んだ和歌のリズムを考えよう。		

1	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業で学習した和歌の中から一首選ぶ。 ・和歌をよく読み、リズムを考える。 ・「タ」＝♪、「タン」＝♪に置き換え、リズム譜を作成する。 <p>○言葉の抑揚を考え、音を当てはめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌をひらがな表記で横書きにし、イントネーションによる音の高低を書き込む。 ・音の高低を参考にして、音と音とのつながり方を考えながら音を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇和歌に詠み込まれた心情や情景など、国語科で学習したことを想起させる。 ◇和歌のもつリズムを「タ」と「タン」で言い換えて唱えるよう指示する。 ◇語句によっては三連符や八分休符になることを助言する。 ◇句切れのところに四分休符を入れたり二分音符を用いたりすると自然な感じになることに気付かせる。 <p>☆ワークシート、発言（ア－①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇隣り合ったひらがなや、その前後のひらがなのイントネーションを比べながら、高低を示した線でつなぐよう助言する。 ◇和歌の歴史的背景から、我が国の伝統的な音楽の音階を用いることに気付かせる。 ◇記譜の仕方を工夫させる。実音と結び付きにくい生徒には、指導者がピアノで弾くなどして音を確かめさせる支援を行う。 <p>☆ワークシート、作品（ウ－①）</p>	「万葉集」 「古今和歌集」 「新古今和歌集」の和歌 ワークシート
ねらい：リズムや旋律の働きの気付く。			
2	<p>○友達作品を味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれ、互いの作品について批評し合う。 ・班の代表作を1点選び、選んだ理由を発表する。 ・他の班の作品についても意見を述べる。 <p>○自分の作品を手直ししよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素の働きを生かしてよりよい作品に仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語等を用いて批評し合うよう助言する。その際、リズムや旋律の働きの気付くよう助言する。 ◇班で選考した以外の優れた作品についても紹介する。 ◇作品の紹介を通して音楽を形づくっている要素の働きについて確認させる。 	ワークシート

・手直しした箇所とその理由をワークシートに書き込む。	☆ワークシート、作品（ア－①、イ－①）
----------------------------	---------------------

【ワークシートの例】

創作ワークシート	
組 番 氏名 _____	
☆和歌にふしを付けて歌をつくろう！	
和歌	はるすぎて なつきたるら しろたえの ころもほたり あめのかぐやま

リズム	

作品	

修正	

修正した理由	

作品について	

— 作成委員 —

清水正信	御所市立御所中学校	校長
塚本眞由美	奈良市立田原中学校	教諭
米谷幸	広陵町立真美ヶ丘中学校	教諭
廣川雅啓	吉野町立吉野中学校	教諭
山中充子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成22年度のものである。)